

埼玉県小学唱歌

尋常三年用

1931年3月

10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20



埼玉縣 小學唱歌

兼教材筆記帖

埼玉縣教育會選定

尋常三年用

7

埼玉縣立図書館

東京

發行



3 105 8425

口 型 圖

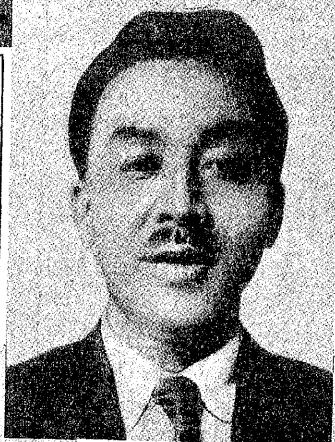
(外山國彦先生)



(ア)



(エ)



(イ)



(オ)



(ウ)

(外山國彦先生著「標準唱歌學習帖」より御承認を受け轉載)

LA 37 4

歌曲筆記代用

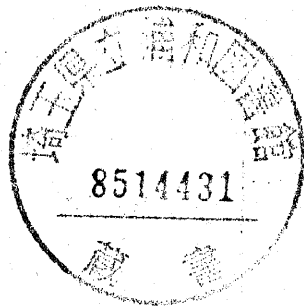
埼玉縣教育會選定

埼玉縣小學唱歌 尋三

東京 文社 出版

よいしやうかのべんきやう

1. ピアノやオルガンの音を、ききのがさないやうにすることが大切です。
2. 先生のおうたひになる時も、お友だちのうたふ時も、しっかりとききませう。
3. 自分のうたふ時も、自分の聲をきくやうな氣持で、いろいろに工夫して歌ひませう。
4. いつでもよいしせいで歌ひませう。
5. いつでも口を自由に、はつきりと動かしてうたひませう。
6. やたらに大聲をはり上げてどなるのはいけません。
7. 弱く小さく歌ふけいこも大切です。
8. いまはきれいに、たくさんずつて、きれいにはくやうにいたしませう。
9. 歌の文句は早く全部おぼえて、唱歌帳を見なくても歌へるやうにいたしませう。



埼玉縣小學唱歌目次

(尋常三年の部)

樂譜の見方..... 1	16 寶の箱(認).....34
君が代..... 6	17 お池のひごひ(認).....35
勅語奉答..... 7	18 鶯越(文).....36
天明長節..... 8	19 雉子打爺さん(認).....37
一月一日..... 10	20 取入れ(文).....38
紀元節..... 11	21 港(檢).....40
金剛石..... 12	22 冬の夜(文).....42
螢の光..... 14	第三學期
仰げば尊し..... 15	23 雪合戦(檢).....41
校歌..... 16	24 夜の道(檢).....43
第一學期	25 子守歌(認).....44
1 春が来た(文).....17	26 達磨さん(認).....45
2 かぶやく光(文).....18	27 豊臣秀吉(文).....46
3 花と春風(認).....19	28 羽衣(認).....48
4 雲雀(認).....20	29 わらび(認).....49
5 茶摘(文).....21	30 進軍(認).....50
6 森の樂隊(檢).....22	参考曲及補充曲
7 日があたる(認).....24	汽車の窓から.....51
8 虹(文).....26	蟹の母さん.....53
9 汽車(文).....27	彼の町此の町.....54
10 風車と水車(認).....28	夏の歌(檢).....55
11 川中島(文).....29	春くらへ(認).....56
第二學期	にじのはし.....58
12 虫のこゑ(文).....30	雀のお宮(認).....59
13 運動會(檢).....31	ダリヤ.....60
14 村祭(文).....32	紅緒のボックリ.....61
15 とんび(認).....33	肩たたき.....62

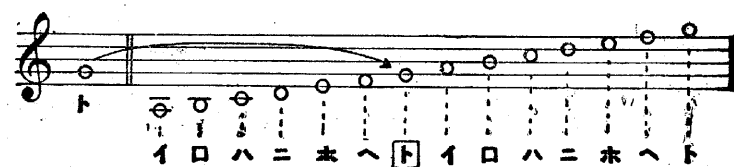
(文)ハ文部省歌曲 (檢)ハ檢定済歌曲 (認)ハ認可済歌曲

樂譜の見方

【一】 譜表(五線)の呼び方



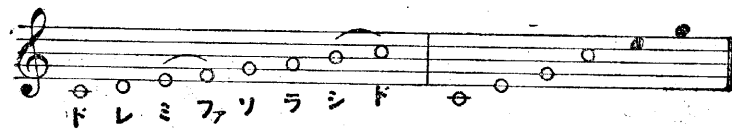
【二】 譜表の上に音名をきめる



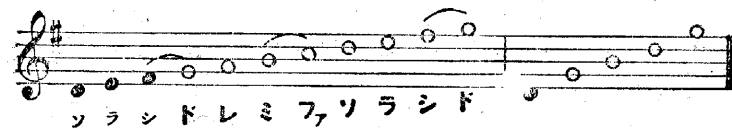
(譜表の始めの記號はト音記號といひとの音をきめる)

【三】 調子記號と下の位置書庫

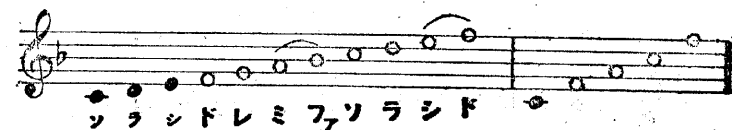
ハ調 (ハの音をドとする)



ト調 (トの音をドとする)



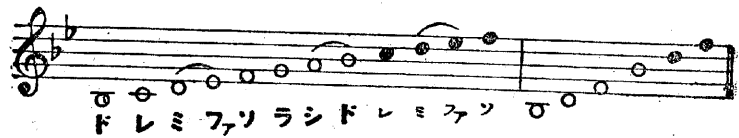
ヘ調 (ヘの音をドとする)



ニ調



變ロ調



イ調



變ホ調



(ホ調)



【四】 音符と休符の長さ

【音符】 音の長さを表はす記號を音符といふ。今その種類を書いて見よう。

- 全音符 四拍の間音を延ばす。
- ♪ 二分音符 全音符の $\frac{1}{2}$ 、二拍
- ♪ 四分音符 全音符の $\frac{1}{4}$ 、一拍

♪ 八分音符 四分音符の $\frac{1}{2}$ 、半拍

♪ 十六分音符 四分音符の $\frac{1}{4}$ 、四半拍

【休符】 音の休む間を表したものを休符といふ。



【附點音符と附點休符】 音符の右に點のあるものを附點音符といつて、その音符の長さの半分を加へる。

○. = ○ + ♩ 附點全音符 (六拍)

♪. = ♪ + ♪ 附點二分音符 (三拍)

♪. = ♪ + ♩ 附點四分音符 (一拍半)

♪. = ♪ + ♪ 附點八分音符 ($\frac{3}{4}$ 拍)

休符の場合も同じである。

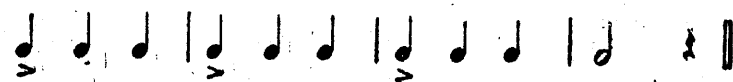
【五】 拍子

長短が規則的にくりかへされる時に拍子が起る。拍子のはじめは常に音に勢ひがある。

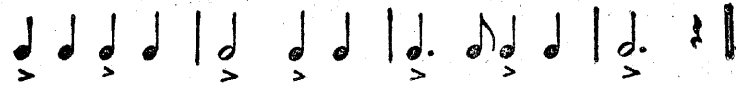
【二拍子】 二拍目毎に強聲の廻つて來るのを二拍子といふ。



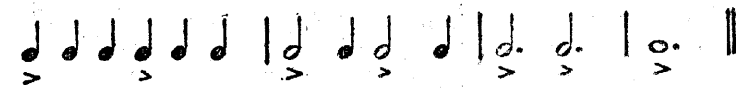
【三拍子】 三拍目毎に強聲のかへつて來る拍子を三拍子といふ



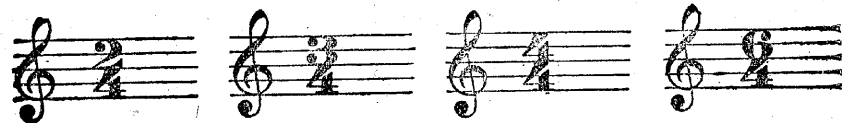
【四拍子】 四拍子には三拍に中強聲がある。



【六拍子】 六拍子は三拍に中強聲がある。



【拍子記號】 以上の様な四分音符一拍の場合はそれぞれ四分の二拍子、四分の三拍子、四分の四拍子、四分の六拍子とよぶ。之を譜表に書くにはト音記號の次に數字を重ねて示して置く。



【その他の拍子と拍子記號】

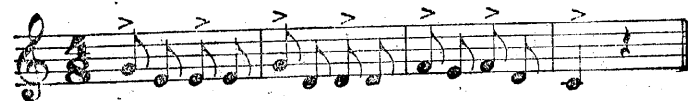
1. 二分の二拍子



2. 八分の三拍子



3. 八分の四拍子



4. 八分の六拍子



數字の代りにある記號を用ひて拍子記號とすることがある。

$$\frac{4}{4} = \text{C}$$

$$\frac{2}{2} = \text{C}$$

【小節】 拍子を明瞭にする爲めに縦線を引き、縦線で區分されたものを小節といふ。

【六】 其の他の諸記號

p (ピアノ) — 弱

f (フォルテ) — 強

(ピアノシモ)	(ピアノ)	(メゾピアノ)	(メゾフォルテ)	(フォルテ)	(フォルテシモ)
<i>pp</i>	<i>p</i>	<i>mp</i>	<i>mf</i>	<i>f</i>	<i>ff</i>
最弱	弱	中弱	中強	強	最強

◁ だんだん強く。 ▷ だんだん弱く。

||: :|| 此の間をくりかへす。

◌ (延長記號) 拍子をとめる。

rit (リターダンド) だんだんゆるく。

♩ tempo (アテンポ) もとの速さに。

— [終] —

君が代

賦を込めて J=69

古歌
林廣守曲



キミガヨハチヨニヤチヨニ



サザレイシノイハホトナリテ



ヨケノムースマデ

君が代は
君が代

千代に八千代に

さざれ石の

いはほとなりて

こけのむすま

勅語奉答

中村秋香
小山作之助曲



アナタフトシナオホミコト



ミコトノムネヲココロニユリテ



ツユモソムカシアサユフニ



アナタフトシナオホミコト

大勅語
あなたふとしな
朝夕にむかひ
露もそむかひ
心に刻りて
勅語の趣旨を
大勅語
あなたふとしな
勅語奉答

天 長 節

嬉しげに ♩=96

黒川真頼 歌
奥好 作曲



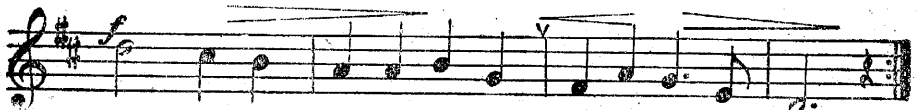
ケ フ ノ ヲ キ ヒ ハ オ ホ キ ミ ノ
け ふ の よ き ひ は み ひ か り の



ウ マ レ タ マ ヒ シ ヲ キ ヒ ナ リ
さ し で た ま ひ し よ き ひ な り



ヒ カ リ ア マ ネ キ キ ミ ガ ヨ フ
め ぐ み あ ま ね き き み が よ を



イ ハ ヘ モ ロ ビ ト モ ロ ト モ ニ
い は へ も ろ び と も ろ と も に

天 長 節

今日のよき日は 大君の
生れ給ひし よき日なり
今日のよき日は み光の
さし出給ひし よき日なり
光あまねき 君がよを
祝へ諸人 もろ共に
恵あまねき 君がよを
祝へ諸人 もろ共に
祝へ諸人 もろ共に

明 治 節

堀 澤 周 安 秀 歌
堀 杉 江 作曲

M.M. ♩=96



(一) { ア ジ ア ノ ヒ ガ シ ヒ イ ツ ル ト コ ロ
フ ル キ ア メ ツ チ ト ザ セ ル キ リ ヲ



{ ヒ シ リ ノ キ ミ ノ ア ラ ハ レ マ シ テ
オ ホ ミ ヒ カ リ ニ ク マ ナ ク ハ ラ ヒ



ヲ シ ヘ ア マ ネ ク ミ チ ア キ ラ ケ ク



ヲ サ メ タ マ ヘ ル ミ ヲ タ フ ト

明 治 節

一、亞細亞の東日出づる處
聖の君の現れまして
古き天地とさせる霧を
大御光に隈なくはらひ
教あまねく道明らけく
治め給へる御代尊
恵の波は八洲に餘り
御稜威の風は海原越えて
神の依させる御業を弘め
民の榮行く力を展ばし
外つ國々の史にも著く
留め給へる御名畏
秋の空すみ菊の香高き
今日のよき日を皆ことほきて
定めましける御意を崇め
諭しましける詔勅を守り
代木ノ森の代長へに
仰ぎ奉らん大帝

一月一日

千 家 章 編 歌
上 真 行 曲



(一) トーシノ ハジメノ タメシト テー
(二) はつひの ひーかり さしいで てー



ヲ ハリ ナキヨノ メデタ サラー
よ もに か が や く け さ の そ らー



マツ タケ ター テ テ カドゴ ト ニー
さーみ が みかげ に たぐへ つ つー



イ ハ フ ケ フ コ ソ タ ノ シ ケ レー
あ ふ ぎ み る こ そ た ふ と け れー

初日の光、さし出でて
四方に輝く 今朝の空
君が御影に 比へつつ
仰ぎ見るこそ 尊とけれ

年としの始はじめ 例たととして
終はりなき世よの 目め出でたさを
松竹まつたけ立てて 門かどごとに
祝いわふ今日けふこそ 樂たのしけれ

一月一日

紀元節

温和に ♩=80

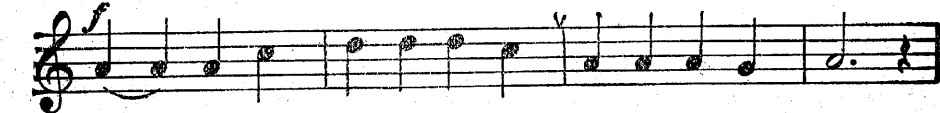
高 崎 正 風 歌
伊 澤 修 二 曲



(一) クーモニ ソビユル タカチホノ
(四) そーらに かがやく ひのもと の



ターカネ オロシニ クサモキモ
よろづの くーにに たぐひなき



ナービキ フシケン オホミヨヲ
くーにの みはしら たてしよを



ア フ グ ケ フ コ ソ タ ノ シ ケ レ
あ ふ ぐ け ふ こ そ た の し け れ

紀元節

一 雲に聳ゆる 高千穂の
高嶺下しに 草も木も
靡き伏しけん 大御世を
仰ぐ今日こそ 樂しけれ

二 海原なせる 埴安の
池の面より なほ廣き
惠の波に 浴みし代を
仰ぐ今日こそ 樂しけれ

三 天つ日嗣の 高御座
千代萬代に 動きなき
基定めし そのかみを
仰ぐ今日こそ 樂しけれ

四 空に輝く 日の本の
萬の國に 類なき
國の御柱 建てし世を
仰ぐ今日こそ 樂しけれ

金 剛 石

詞 典 好 義 曲

♩=92

コ ン ガ ウ セ キ モ ミ ガ カ ズ バ
 タ マ ノ ヒ カ リ ハ ツ ハ ザ ラ ム
 ヒ ト モ マ ナ ビ ラ ノ チ ニ コ ヅ
 マ コ ト ノ ト ク ハ ア ラ ハ ル レ
 ト ケ イ ノ ハ リ ノ タ ニ マ ナ ク
 メ グ ル ガ ゴ ト ク ト キ ノ マ ノ
 ヒ ー カ グ ラ シ ミ ラ ハ グ ミ ナ バ

金 剛 石 (つづき)

イ カ ナ ル フ ザ カ ナ ラ ザ ラ ム

金 剛 石

金剛石もみがかずば

珠のひかりはそはざらむ

人もまなびて後にこそ

まことの徳はあらはるれ

時計の針のたえまなく

めぐるが如く ときのまの

日かげをしみて勵みなば

如何なる業かならざらむ

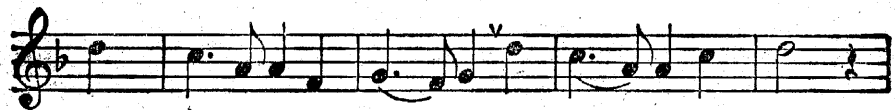
螢の光



(一) ホタルノヒカ—リマドノユ—キ—
 (二) とまゐるもゆ—く—もかざりと—て—



フミヨムツキ—ヒカサネツ—ツ—
 かたみにあも—ふちよろづ—の—



イツシカトシ—モスギ—ノトヲ—
 こころのはし—をひと—ごと—to—



アケテヅケサ—ハワカレユ—ク—
 さきくとばか—りうたふな—り—

一、螢の光の窓の雪
 書よむ月日かさねつつ
 いつしか年もすぎのときを
 あけてぞ今朝は別れゆく
 二、とまゐるも行くも限りとして
 かたみにあもふちよろづの
 心のはしを人ごとに
 幸くとばかりうたふなり
 三、つくしのきはみみちの奥
 海山とほくへたつとも
 その真心はへだてなく
 ひとつにつくせ國のため
 四、臺灣のはても樺太も
 やしまのうちのまもりなり
 いたらん國にいさをしく
 つとめよわがせつづがなく

螢の光

運動會

快活に J=84

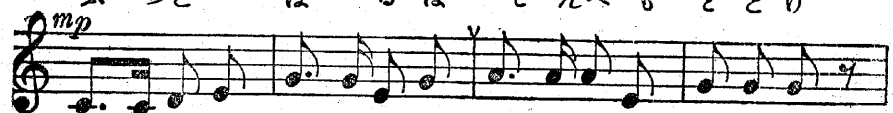
石原和三郎歌
 石田村虎藏曲



(一) ヒ—ゴロキタヘニキタヘタチカラ
 (二) あ—しはきんてつみがきをかけて



ミセルハコノトキイザウデダメシ
 ふつと—ぼ—るはてんへもとどけ



ハ—シラクラナラアラビヤウマヨ
 う—ではすぢがねよりをばこめて



タカトビハバトビカンガルナンノ
 つ—なはちぎれよひくたびたびに

運動會
 一、日頃鍛へに鍛へた力
 見せるは此時いざ腕試めし
 走りくらならアラビヤ馬よ
 高飛び幅飛びカンガル何の
 二、脚は金鐵磨きをかけて
 フットボールは天へも届け
 腕は筋金纏をば込めて
 綱はちぎれよ引くたび度に
 三、勝つも負けるも勝負はならひ
 おのが全力盡した上で
 勝てば喝采負けても拍手
 露も卑劣な振舞するな
 四、二十世紀の多事なる世界
 日本男兒の勤めは多い
 無病の體に無病の心
 鍛へよ體を先づ第一に

村 祭

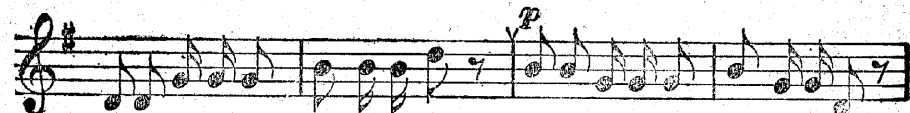
文 部 省 歌 曲



(一) ム ラ ノ チ シ ヅ ノ カ ミ サ マ ノ
 (二) と し も ほ う ね ん ま ん さ く で
 (三) ヲ サ マ ル ミ ヲ ヨ ニ カ ミ サ マ ノ



ケ フ ハ メ デ タ イ オ マ ツ リ ビ
 む ら は そ う で の お ほ ま つ り
 メ グ ミ ア フ グ ヤ ム ラ マ ツ リ



ドン・ドン・ヒヤララ ドン・ヒヤララ ドン・ドン・ヒヤララ ドン・ヒヤララ
 どん・どん・ひやらら どん・ひやらら どん・どん・ひやらら どん・ひやらら
 ドン・ドン・ヒヤララ ドン・ヒヤララ ドン・ドン・ヒヤララ ドン・ヒヤララ



ア サ カ ラ キ コ エ ル フ エ タ イ コ
 よ る ま で に ぎ は ふ み や の も り
 キ イ テ モ コ ロ ガ イ サ ミ タ ツ

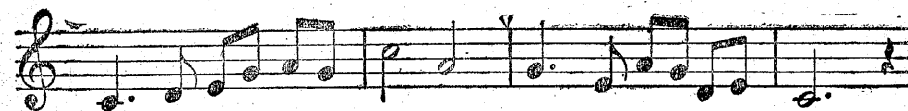
村 祭
 一 村の鎮守の神様の
 今日目出度い御祭日
 ドン ヒヤララ
 ドン ヒヤララ
 ドン ヒヤララ
 朝からきこえる笛太鼓
 二 年も豊年満作で
 村は總出の大祭
 ドン ヒヤララ
 ドン ヒヤララ
 ドン ヒヤララ
 夜まで賑ふ宮の森
 三 治まる御代に神様の
 恵み仰ぐや村祭
 ドン ヒヤララ
 ドン ヒヤララ
 ドン ヒヤララ
 聞いても心が勇みたつ

と ん び

葛 原 祐 貞 歌 曲



(一) ト ベ トーペー トンビ ソ ラ ターカーク
 (二) と ぶ とーぶー とんび そ ら たーかーく



ナ ケ ナーケー トンビ ア ヲゾーラーニ
 な くなーくー とんび あ をぞーらーに



ピンヨロ ピンヨロ ピンヨロ ピンヨロ
 びんよろ びんよろ びんよろ びんよろ

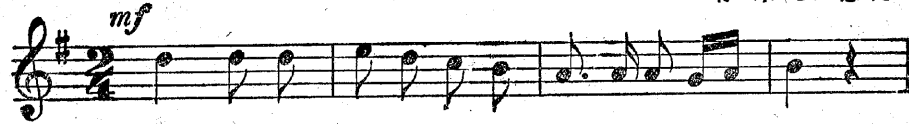


タ ノ シーゲーニ ソ ヲカーイーテ
 た の しーげーに わ をかーいーて

とんび
 一 とべとんとんび
 空高く
 なけなけとんび
 青空に
 ピンヨロロロ
 ピンヨロロロ
 たのしげに
 輪をかいて
 二 とぶとぶとんび
 空高く
 なくなくとんび
 青空に
 ピンヨロロロ
 ピンヨロロロ
 たのしげに
 輪をかいて

寶の箱

清水かつら 歌曲
青木友忠



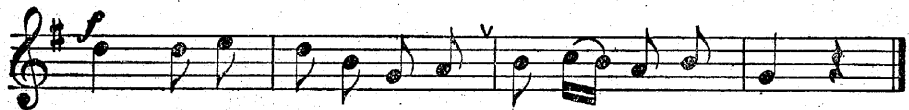
(一) コレハ インドノ ワウサマーノ
(二) これは せかいに またとなーい



タカラノ ハーコデ ゴザーイマス
たからの はーこで ござーいマス



ソツト ノゾーケバ ビイーカビーカ
そつと あけーれば にやーごにーご



ダイヤモンドノ オホーシサ マ
だ いや もんどは こねーこの め

「これは世界のまたとなーい
寶の箱でござります」
そつとのぞけばニヤアゴニヤゴ
ダイヤモンドは小猫の眼

「これはインドの王様の
寶の箱でござります」

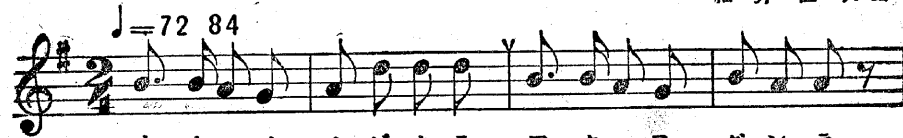
そつとのぞけばビイーカビカ
ダイヤモンドのお星様

「これは世界のまたとなーい
寶の箱でござります」

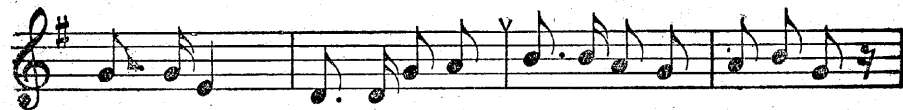
寶の箱

お池のひごひ

青木存直 歌曲
福井直秋



(一) ウキモノ カゲカラ アタマヲ ダシテ
(二) おほきな おくちにおひかけられて



ナゲタ フラクフー オイケノ ヒゴヒ
なみの まにまに やきふが にげる



ヒト ツ フ タ ツ ミーツ ツ
ゆらり ゆらり ゆらり ゆらり



ミーツノ オクチデ バク バク バク
ゆらめく あとから ばく ばく ばく

バヨヨ 焼波追大
らら 獄の掛き
くめりがまけな
くく 逃にらお
後 げ くれに
からる

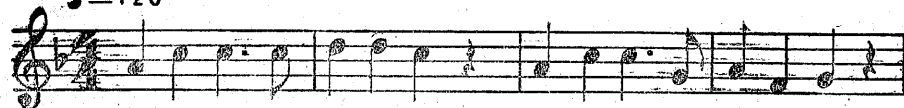
バ三ーち 投頭淨
クツツ 池げを藻
の の た 出の
ち 二 排 獄 し かけ
口ツ 鯉をて け
で 食 食 から
三
ッ

お池のひごひ

鶉 越

文 部 省 歌 曲

♩=120



(一) シカモヨツアシ ウマモヨツアシ
(二) つづくゆうしも いつきたうせん



シカノコエユク コノサカミ一チ
ひよどりごえに ついてみれば



ウマノコセナイ ダウリハナイト
へいけのちんやは ましたにみえて



タイジウヨシツネ マツサキニ
たたかひいーまや まつさいち



鶉 越

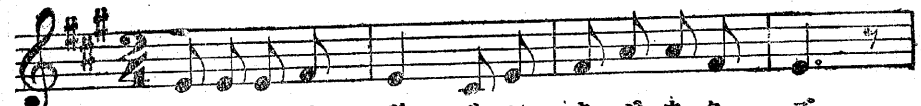
一 鹿も四足馬も四足
鹿の越えゆくこの坂路
馬の越せない
道理はないと
大將義経真先に

二 続く勇士も一騎當千
鶉越に着いて見れば
平家の陣屋は
真下に見えて
戦今や真最中

三 油断大敵裏の山より
三千餘騎の逆落しに
平家の一門驚きあわて
屋島をさして
落ちてゆく

雉子打爺さん

北 原 白 秋 歌 曲
章 川 信 曲



(一) キジウチ ディサン キジウタズ
(二) きじうち ぢいさん きじみる と
(三) キジウチ ディサン キジウタズ



イツデモーションボリ オリテキータ
めんどりーかはいそ をすきれい
タニツコーバツカリ ウツテキータ



ヤマカラ シヨンボリ オリテキータ
このきじかはいそ うたれな
アラゾラ バツカリ ウツテキータ

雉子打爺さん

一 雉子打爺さん 雉子打たず
いつでもしよんぼり ありて来た
山からしよんぼり ありて来た

二 雉子打爺さん 雉子見ると
めんどりかはいそ をすきれい
子の雉子かはいそ 打たれない

三 雉子打爺さん 雉子打たず
谷底ばかり 打つて来た
青空ばかり 打つて来た

取 入 れ

♩=116

文部省歌曲



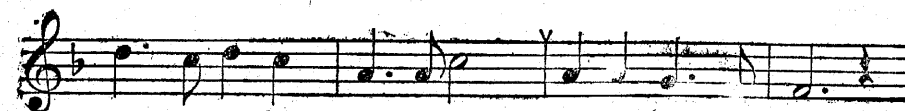
(一) ハ ルノ タ ガー ヤ シ ス キ ナ ラ シ
 (二) ひ より つ づー き の き の ふ け ふ
 (三) ア ゼノ コ ミー チノ ヒ ト ヤ ス ミ



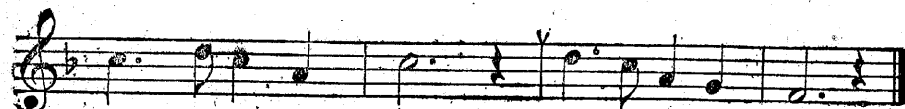
ナ ー ツ ノ ウ エー ツ ケ タ グ サ ト リ
 そ ろ う た あ — や こ あ に お と と
 ハ ナ シ ノ タ — ネ ハ タ ワ ラ カ ズ



ホ ー ネ ミ ラ シ マ ヌ ハ ター ラ キ ニ
 か つ て — た ば ね る ほ し て こ く
 ヤ ー ガ テ メ デ タ ク ツ ミー ア ゲ ル



ホ ニ ホ ガ サ イ タ イ ネ ノ デ キ
 み る ま に つ も る も み の や ま
 ト リ イ レ ド キ ノ タ ノ シ サ ヨ



ホ ウ ネ ン チ ャ マ ン サ ク チ ャ
 ほ う ね ん ぢ ャ ま ん さ く ぢ ャ
 ホ ウ ネ ン チ ャ マ ン サ ク チ ャ

取 入 れ

一 春の耕しすきならし 夏の植付け田草とり

骨身惜まぬ働きに 穂に穂が咲いた稲の出来

二 日和續きの昨日今日 揃うた親子兄弟

刈つて束ねる乾してこく 見る間に積る籾の山

豊年ぢや 萬作ぢや

三 畔の小路のひと休み 話の種は俵敷

やがて目出度く積み上げる 取入れ時の楽しさよ

豊年ぢや 萬作ぢや

港

歌 野 士 郎 旗
曲 田 信 太 吉



(一) ソーラモミナトモヨハハレター
(二) はーやしなしたるほばしらにー



ッーキニカズマスフネノカゲ
はーなとみまがふふなじるし



ハシケノカーヨヒニギヤカニ
つみにのうーたのにぎはひて



ヨセクルナーミモコガネナリ
みなどはいーつもはるなれや

一 空も港も 夜は晴れて
月に數ます 舟のかげ
端艇のかよひにぎやかに
よせくる波も 黄金なり
林なしたる 檣に
花と見まがふ 船旗章
積荷の歌の にぎはひて
港はいつも 春なれや



冬 の 夜

文 部 省 歌 曲

♩ = 84



(一) トモシビーチーカクキヌヌフーハハハ
(二) ゐるりのーはーたになはなふーちちは



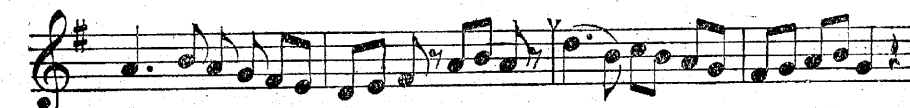
ハールノーアソビノタノシサカタル
すーぎしーいくさのてがらをかたる



キナラブーコドモハユービヲーヲリツツ
るならぶーこどもはねーむさーわすれて



ヒーカズーカゾヘテヨロコビイサム
みーみをーかたむけこぶしをにぎる

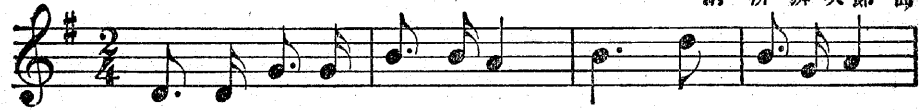


キロリビハートーロトーロソートーハーフーブーキ
るるりびはーとーろとーろそーとーはーふーぶーき

雪 合 戦

快活に ♩=104

大和田 建樹 歌
納 所 辨次 郎 曲



(一) フ リ ツ ム ユ キ ラ カ タ メ テ ハ
(二) み か た の し ろ は ま つ の し た



テ ン デ ニ ウ チ ダ ス ダ ン グ ン ノ
て ー き の と り で は へ い の そ ば



ク ダ ケ テ チ ラ カ ル シ ロ ケ ム リ
み る み る た が ひ に い り み だ れ



タ タ カ ヒ イ マ ゴ ー サ カ ン ナ ル
と つ か ん し ん げ き に ど さ ん ど

目にも見せてくれんすと
勢いよく打つたまに
敵はいよいよ乱されて
城明け渡し逃げて行く

やがて垣根の麓より
跳り出でたる 決死隊
これを合圖に 我が軍の
總攻撃は 始まりぬ

四

三 雪 合 戦



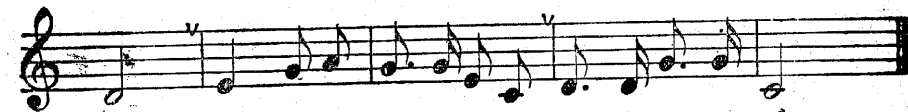
夜 の 道

少しく急いで

吉 丸 一 呂 歌
栗 田 貞 曲



(一) カ ラ ッ カ ラ ッ カ ラ ッ ア シ ダ サ ン ズ ン シ モ フ ン
(二) カ ラ ッ カ ラ ッ カ ラ ッ い そ ぐ う ら ま ち つ き さ え



デ カ ヘ ル ヤ ガ ク ヤ フ ト コ ロ デ
て み み は つ め た し む か ひ か せ

急ぐ裏町月冴えて
耳はつめたし向風

カラッ
カラッ
カラッ
カラッ

二

足駄三寸霜踏んで
歸る夜學やふところ手

カラッ
カラッ
カラッ
カラッ

一 夜 の 道

子守歌

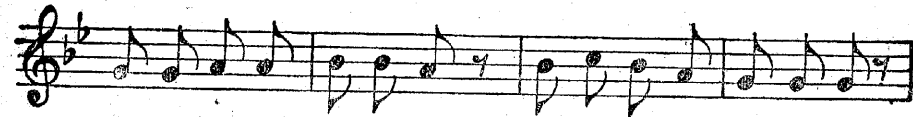
山本 壽 歌曲



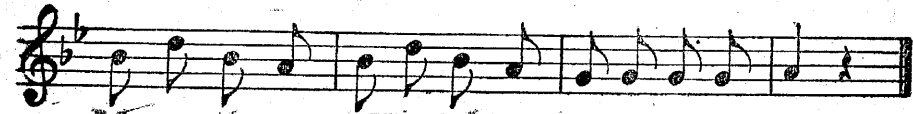
(一) ネンネン ヨ — オコロリ ヨ
 (二) ねんねん よ — おころり よ



パウヤハ ヨイコダ ネンネン ヨ
 ばうやは よいこだ ねんねん よ



マダヨガ アケヌ ヨイユメ ミツツ
 ひぐれの はなの つぼまる やうに



ヨイコダ ナクナヨ ネンネン ヨ
 よいこだ なくなよ ねんねん よ

ねんねんよ おころりよ
 坊やはよい子だ ねんねんよ
 日暮の花の つぼまるやうに
 よい子だ泣くなよ ねんねんよ

ねんねんよ おころりよ
 坊やはよい子だ ねんねんよ
 まだ夜が明けぬ よい夢みつゝ
 よい子だ泣くなよ ねんねんよ

子守歌

達磨さん

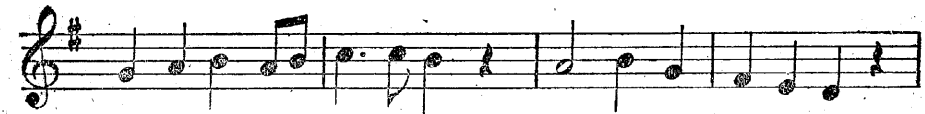
吉本 丸居 昌世 歌曲



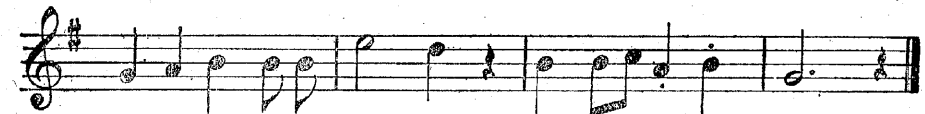
(一) ドコノ ヤマ カラ デテキ ターダルマ
 (二) はーり だされ て おきーて はーみたが



オホ キナメ ダーマ デ ケローリ カン
 ど こが に しーや ら ひがーし や ら



キモヲ ツーブ シタ カホノ マヘヲ
 と ても そーれ じゃ も の に なら ぬ



アカイ ミヤ コノ カゼーガフ ク
 くねん めん べ き や りーな ほ せ

達磨さん

何處の山から
 出て来た達磨
 大きな目玉で ケロリカン
 肝を潰した 顔の前を
 赤い都の 風が吹く

九年前壁 遣り直せ

何處が西やら 東やら
 とても夫では 物にならぬ

抛り出されて
 起きては見たが

豊臣秀吉

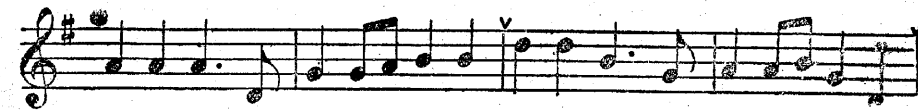
文 部 省 歌 曲



(一) ヒヤクネン コノカタ ミダレシ テンカモ
 (二) よりよくをもちひて てうせん せむれば



センナリ ベウタン ヒト タビ イヅレバ
 はちだう みるまに わが て に やぶられ



シカイ ノ ナミ—カゼ タチマ チラサ—マリ
 こくくう かが—やき こ—く ゐ あが—りて



ロクジフ ヨ シウハ クサキ モ ナビク
 し—ひく よしうも をのの き ふるふ



ア ア タ イカフ ホウ タ イ カフ
 あ あ た いかふ ほう た い かふ

豊臣秀吉

一 百年このかた 亂れし天下も

千なり瓢箪 一たび出づれば

四海の波風 忽ち治り

六十餘州は 草木も靡く

あゝ太閤 豊太閤

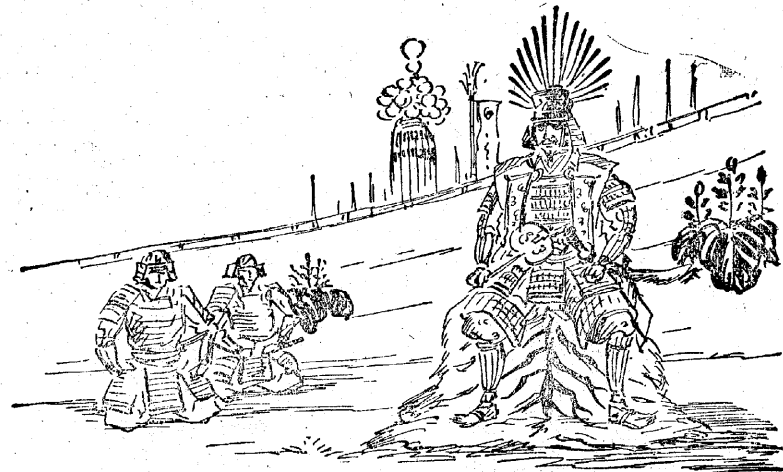
二 餘力を用ひて 朝鮮攻むれば

八道見る間に 我手に破られ

國光かがやき 國威あがりて

四百餘萬も 戦き震ふ

あゝ太閤 豊太閤



羽衣

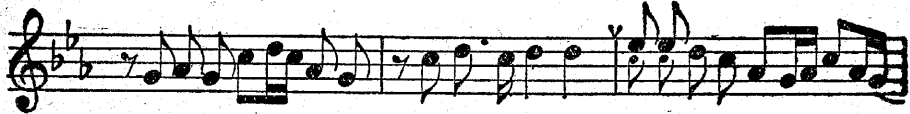
葛原 謡曲
葉田 貞



(一) アレテ、ニンハ ハゴロモノ マヒラマヒ—マ—ヒ—
(二) あれか、れゆくまつばらは みほのはま—べ—か—



カ ヘリユク カゼニタモトガ ヒラヒラト
な つかしや はまのれふしは やすらかに



ハネニアサ—ヒガ キラキラト マツバラコ—エテ—
さかえさか—えよ いつまでも につぼんい—ちの—



—オホゾラノ カスミニキ エテ—ノポリユク
—ふじさんも かすみのしたに—きえてゆく

あれ天人は羽衣の
舞を舞ひく、歸り行く
風に袂が ヒラ／＼と
羽に朝日が キラ／＼と
松原こえて大空の
霞に消えて昇り行く

二
あれ隠れ行く松原は
三保の濱邊か なつかしや
濱の漁師は安らかに
榮えさかえよ いつまでも
日本一の富士山も
霞の下に消えて行く

羽衣

わらび

北原 白秋 歌
本 居 世 曲



急速に
(一) ワーラビ ワラビ イツ—イツ—モエ—ル
(二) むぢなの よめは いつ—いつ—きや—る



ヤ マヤ キノ—ヤ キ マダ—ヒハ アカイ
ヤ マヤ キ の—ヤ キ よは—ひが あかい

二
むぢなの 嫁は
まだひは 赤い
山^ま焼^やき 野^の焼^やき
いついつ 来^きやる
山^ま焼^やき 野^の焼^やき
いついつ もえる
一
わらび わらび
わらび

一
夜^よは ひが 赤^{あか}い
山^ま焼^やき 野^の焼^やき
山^ま焼^やき 野^の焼^やき

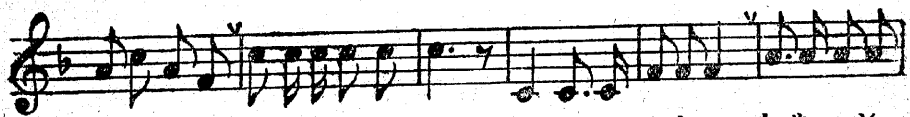
進 軍

葛原しげる 歌
梁田 貞 曲

元氣に



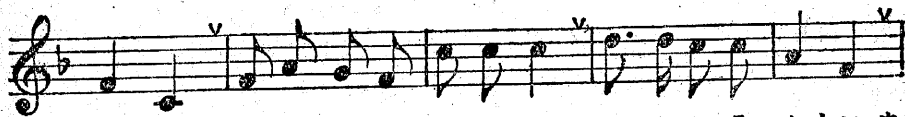
ト ト ト ト タ タ タ タ ト ト タ タ タ タ



ト ト タ タ タ タ タ ラ ッ パ ノ オ ト ハ イ サ マ シ



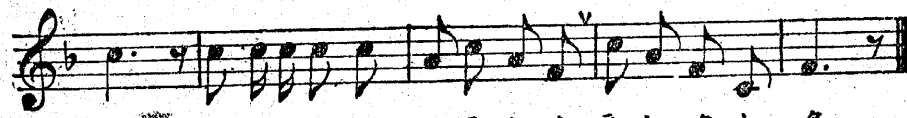
イ ム ネ ニ ハ ク シ ャ ウ ビ カ ビ カ サ セ テ オ テ テ ニ



サ ー ベ ル ギ ラ ギ ラ サ セ テ ア ト カ ラ タ イ シ ャ ウ



オ ウ マ デ ク ル ヨ ト ト ト ト タ タ タ テ ト テ ト



タ タ タ タ タ ト テ ト テ ト タ ト タ

進 軍

ト	ト	ト	ト	ト	ト	ト	ト	ト	ト
タ	タ	タ	タ	タ	タ	タ	タ	タ	タ
ト	テ	ト	ト	ト	テ	ト	ト	ト	タ
タ	タ	タ	タ	タ	タ	タ	タ	タ	タ
ト	テ	ト	ト	ト	テ	ト	ト	ト	タ
タ	タ	タ	タ	タ	タ	タ	タ	タ	タ
ト	テ	ト	ト	ト	テ	ト	ト	ト	タ
タ	タ	タ	タ	タ	タ	タ	タ	タ	タ

ラ ッ パ の 音 は い さ ま し い
胸 に は 勳 章 ビ カ ビ カ さ せ て
お 手 々 に サ ー ベ ル ギ ラ ギ ラ さ せ て
後 から 大 將 お 馬 で く る よ

汽車の窓から

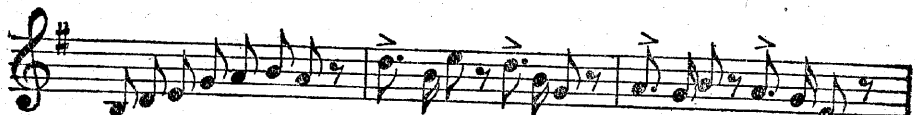
(原名・電信柱)

大田黒克彦 歌
中山晋平 曲

♩=84)



(一) キシノマドカラムカフヲミレバ デンシンバシラノ
(二) きしがいそげばへいたいさんも いそげいそげと



へイタイサンガ オイチニ オイチニ オイチニ オイチニ
かけあしはじめ オイチニ オイチニ オイチニ オイチニ



アトカーラーアトカーラ ャッタークール
やまこえの をこえとんでくる

飛山	オオ	急兵	汽	やあ	オオ	電向	汽	
ん越	イイ	げ隊	車	つと	イイ	信と	車	一
でえ	チチ	急急	が	てか	チチ	柱を	の	
來野	ニニ	げん	急	來ら	ニニ	の	見	
るを		とも	げ	るあ		兵	れ	
越	オオ	駐	ば	とオ	オオ	隊	ば	
え	イイ	足		から	イイ	さん		
	チチ	は		らチ	チチ	ん		
	ニニ	じ		ニニ	ニニ	が		
		め						

汽車の窓から

蟹の母さん

清水かつら 歌
川信 曲



(一) カアニノカアサンタスーキガケ
(二) ちよろちよるながれはやぶのかげ
(三) ホタルノネエサンオケシシテ
(四) あかりのしたくはよいけれど
(五) カアニノカアサンタスーキガケ



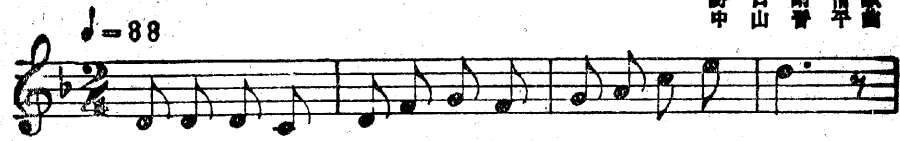
チ。ロチ。ロ ナ ガレヘ コメートギ ニ
ほたるの おうちの むかふが し
ソ ロソ ロ ア カリノ オシタク カ
ま だ ま だ ま また き ひ と し じ ごと
ヒ グレハ セ ワシイ タスーキガ ケ

五	蟹の母さん たすきがけ 日ぐれは せわしい たすきがけ
四	あかりのしたくは よいけれど まだまだ 飯たき ひと仕事
三	ほたるの 姉さん お化粧して そろそろ あかりの おしたくか
二	ちよろちよる 流れは 簾のかけ ほたるの お家は むかふ河岸
一	蟹の母さん たすきがけ ちよろちよる 流れへ 米とぎに

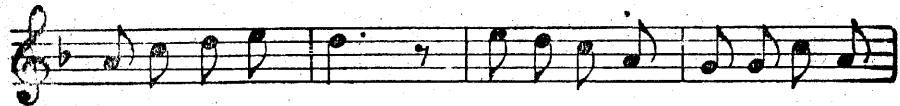
蟹の母さん

彼の町此の町

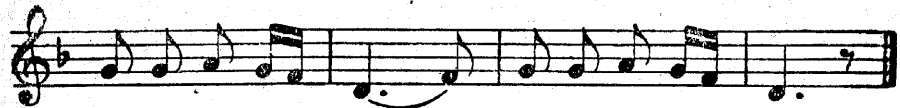
野口晴豊 作
中 山 晋 曲



(一) アノマチ コノマチ ヒガクレル
(二) おうちが たんだん とほくなる



ヒガクレル イマキタ コノミチ
とほくなる いまきた このみち



カヘリヤンセー セー カヘリヤンセー
かへりやんせー せー かへりやんせー

三 二 一

三 二 一
 歸^ル今^日星^がお^空 歸^ル今^日遠^くお^家 歸^ル今^日あ^の
 り來^たが空^にり來^たく家^がり來^たが町^の
 やんこのゆふ星^がの道^がやんこの遠^くだん^だり來^たの暮^れる町^の
 歸^ル道^が星^がの道^が歸^ル道^が歸^ル道^が日^が暮^れる
 りやんせ
 せ
 なる
 なる
 なる

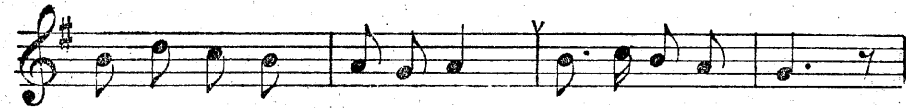
彼の町此の町

夏の歌

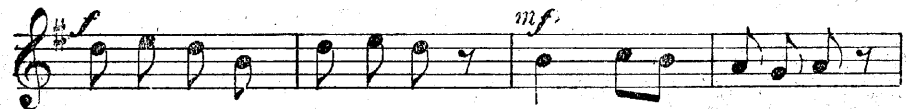
大和田建樹 歌
田村虎藏 曲



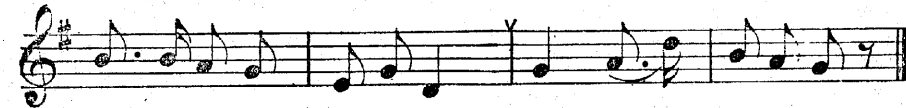
(一) アカキハ ノベノ エリノハ ナ
(二) あをたに つづく はすいけ の



キナルハ ハタノ ウリノハ ナ
はなふく かぜも かんばしく



ホタルノ ジセツ ヤ ヤー スギチ
ゆふべに なれば ひぐーらしの



ナクセミ モリニ コエー タカシ
すずしき こゑは ちーここに

涼^しひ^ぐ夕^べ花^吹蓮^池青^田 二
 しき^らべ^にく^のの^に續^く
 聲^はの^なれ^ば風^も香^んば^しく
 はおちこちに
 聲^高啼^く螢^の黄^{なる}百^合赤^き
 し 森^に時^節は^花野^邊
 に や^すぎ^て瓜^の花^花

夏の歌

脊くらべ

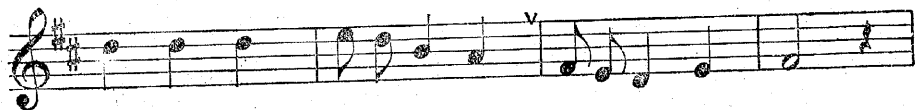
歌 厚 野 山 晋 中 海 曲 平



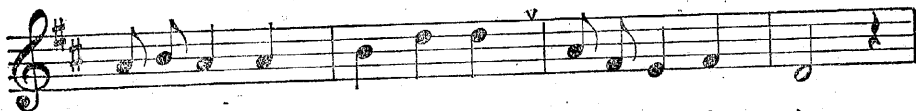
(一) ハシラ ノ キーゾ ハ ヲト シ ノ
(二) はしら に もたれり。 すぐみえ る



ゴグツ イツカノ セイクラ ベ
とほい おやまも せいくら ベ



チ マ キ タベ タベ ニイサ ン ガ
く も の うへま で かほだ し て



ハカ ッ テ ク レ タ セイ ノ タ ケ
て ん で に せ の び し て ゐ て も

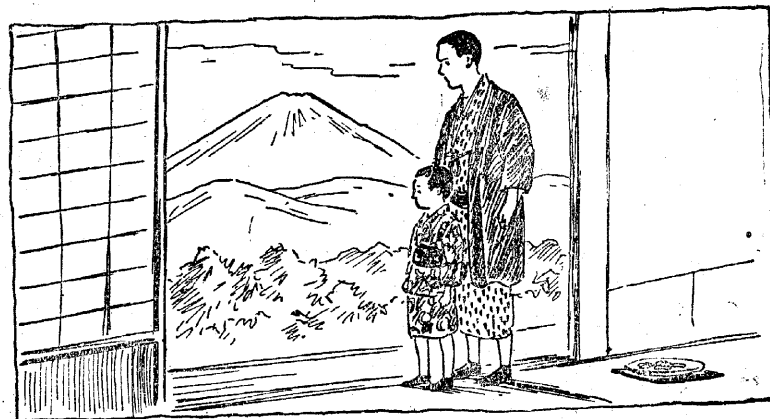


キ ノ フ クラベ リ ナン ノ コー ト
ゆ き の ばうし を ぬい で さー へ

脊くらべ (つづき)



ヤー ト ハオリノ ヒモノ ターケ
いち は やつぱり ふじの やーま



柱にもたれりや すぐ見える
遠いお山も 脊くらべ
雲の上まで 顔出して
てんでに 脊伸してゐても
雪の帽子を 脱でさへ
一はやつぱり 富士の山

二

柱のきずは 一昨年とせの
五月五日の 脊くらべ
糺しらたべたべ 兄さんが
計つてくれた 脊のたけ
昨日くらべりや 何のこと
やつと 羽織の紐のたけ

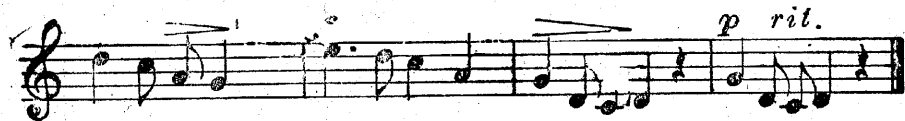
脊くらべ

にじのはし

奥野庄太郎歌
下總院二曲



(一) ニジノハシ ワタロ ニジノハシ
(二) にじのはし わたろ にじのはし



ナガレタ アメフツテ ナガレタ ナガレタ
やけちやつた おひさんに やけちやつた やけちやつた

二にじの橋渡ろ
にじの橋焼けちやつた
おひさんに焼けちやつた
焼けちやつた

一にじの橋渡ろ
にじの橋流れた
雨降つて流れた
ながれた

雀のお宿

北原白秋歌
弘田龍太郎曲

輕快に



(一) ササヤブ コヤブ コヤブノ ナカ一デ
(二) すずめ すずめ すずめの こら一ば



チュウチュウ パタパタ スズメノハタオリ アチラデトト
ちゅちゅ ばたばた そのをさひろひよ うへへいたり



コチラデトト ヤレヤレイソガシ ヒガカデル
しーたへいたり やれやれいそがし ひがつまる



チュウチュウ パタパタ チュウパタリ チュウチュウ パタパタ チュウパタリ
ちゅちゅ ばたばた ちゅばたり ちゅちゅ ばたばた ちゅばたり

雀のお宿

一 雀の巣の中
ちゆうくばた くばた くばた
こちらでとんとん
やれやれ忙し日がかげ
ちゆうばたり

二 雀の子らは
ちゆうくばた くばた
其の梭ひろひよ
上へ行つたり下へいたり
やれやれ忙し日がつまる
ちゆうばたり

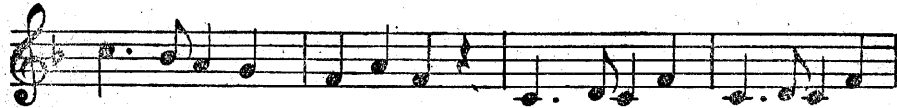
三 青縞茶縞茶縞のおへ
ちゆうくばた くばた くばた
何反織れたか
朝から一反ひるから一反
やれやれいそがし日が暮れる
ちゆうばたり

ダ リ ヤ

歌 水 歌 山 牧 若
曲 世 長 居 本



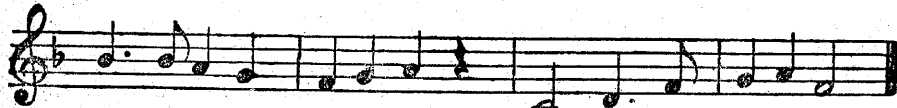
ダ リ ヤ ダ リ ヤ ア カ イ ダ リ ヤ



オ ホ キ ナ ダ リ ヤ ア タイ ノ カ ー ホ ト



ク ラ ー ベ テ ミ タ ラ ア タイ ノ カ ホ ヨ リ

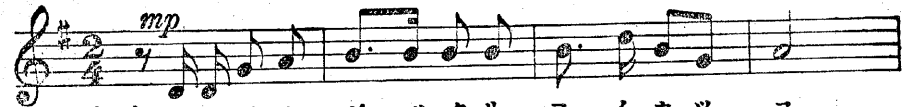


オ ホ キ ナ ダ リ ヤ マ ッ カ ナ ダ リ ヤ

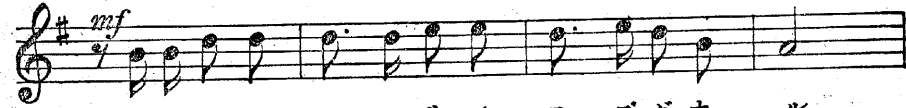
ダ リ ヤ、ダ リ ヤ
赤いダリヤ
おほきなダリヤ
あたいの顔と
くらべて見たら
あたいの顔より
おほきなダリヤ
真赤なダリヤ

紅緒のポツクリ

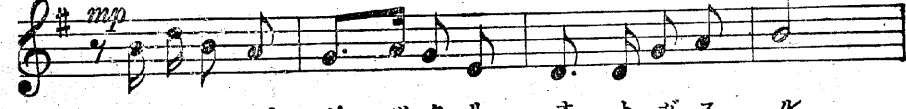
歌 紅 歌 雨 村 中
曲 士 武 上 井



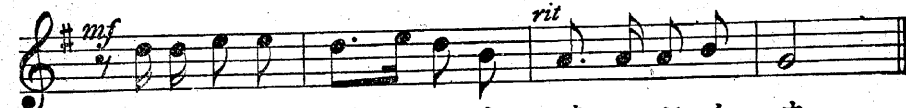
(一) ベニヲノ ポツクリ ヨ イカツ コ
(二) べにをの ぼ つくり ち ん ころ ろ



アルケバ チンリン スズガナル
はいたら おきやくに いきませうか



カケレバ ポツクリ オトガスル
ちんりん ころろと いきませうか

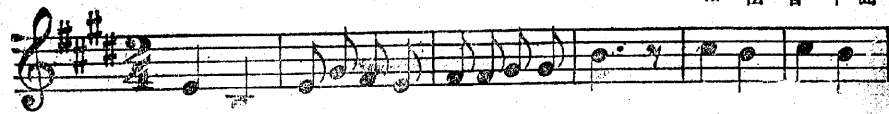


チンリン ポツクリ ウレシイ ナ
べにをの ぼ つくり う れ しい な

一、紅緒のポツクリよいカツコ
歩けばチンリンすゝが鳴る
駐ればポツクリ音がする
チンリンポツクリうれしいな
二、紅緒のポツクリチンコロロ
履いたらお客にいきませうか
チンリンコロロといきませうか
紅緒のポツクリうれしいな

肩 た た き

四 傑 八 十 歌
山 音 平 曲



カアサン オカタラ タタキマ セウ タント。タント。



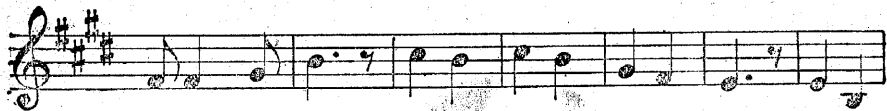
タント。 ト。 カアサン シラガガ アリマス ネ



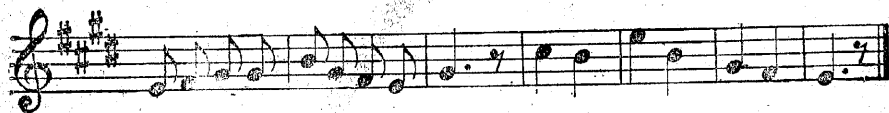
タントン。 タントン。 タントン。 ト。 オエンガハニハ ヒガイ。



バイ タントン。 タントン。 タントン。 トン マッカナ クシガ



ワラッ テル タント。 タント。 タント。 ト。 カアサン



ソンナニ イイキモチ タント。 タント。 タント。 トン

タン トン トン
 タン トン トン
 いゝ 氣もち
 母さん そんなに
 タン トン トン
 タン トン トン
 わらつてる
 まつ 赤な 嬰衆が
 タン トン トン
 タン トン トン
 日が一杯
 お縁側には
 タン トン トン
 タン トン トン
 ありますね
 母さん 白髪が
 タン トン トン
 タン トン トン
 た、さませう
 母さん お肩を
 肩 た た き

長音階

ハ調

ト調

ニ調

イ調

ホ調

ロ調

長音階

變ロ調

變ホ調

變イ調

變ニ調

♯の調子は最後の♯をシとする。
 ♭の調子は最後の♭をファとする。

♯の調子は最後の♯をシとする。
 ♭の調子は最後の♭をファとする。

昭和五年四月五日印刷
 昭和五年四月十日發行
 昭和五年九月十日二版
 昭和六年三月五日三版

「小學生の唱歌」
 埼玉縣版

至自尋一 全六冊 各定價金拾參錢
 至自尋二 全二冊 各定價金拾五錢

不許複製

選定者 埼玉縣教育會
 選曲者 埼玉縣音樂教育研究會
 發行者 鈴木 木 瓦
 印刷所 京文社印刷部

東京市牛込區西五軒町四一

發行所 東京市神田區淡路町二ノ二
 振替東京八二二六番
 電話神田(25)三九〇番
 三九二番

京文社

賣捌店 埼玉縣下各書店



持主	

定價\$13

LA